

北海道国際理解教育研究大会 札幌大会開催に関わる「夏の学習会」参加報告

北見市立上常呂小学校 佐藤 文昭

1. 期 日 平成21年7月28日(火)
2. 会 場 札幌市立清田小学校
3. 主な内容 道研究担当者会議 : 11:00~12:00
 - ・道の研究内容について
 - ・各地区の研究についての交流札幌大会指導致案学習会 : 13:00~14:00
 - ・市の研究内容について
 - ・各指導致案の説明
 - ・協議講演会 : 14:15~16:15
 - ・菅 正隆 大阪樟蔭女子大学 教授
前文部科学省初等中等教育局教育課程科調査官
(新学習指導要領の策定や英語ノートの制作を担当)

・・・以下、講演についてのまとめ

現状

言葉は本から学ぶもの → 言葉を知らない
使い方は人と交わり学ぶもの → 言葉を使えない
※ 映画の字幕スーパーが読めない大人も増えてつある。
→言語に関する末期的症状

子どもたちの現状

日本 鎖国以来、外国語は訳読中心(蘭学~現代 例:現在の京都大学の入試問題)

今後 いろいろな言語を使い わかる わかろうとする
伝える 伝えようとする が大切。

英語ノート

全国の学校のデータを基に作った。特定の者が勝手に作ったわけではない。
(よく使う単語のアンケートなど)

テーマと願い 1 (5年のもの) メルヘン 2 (6年のもの) ファンタジー

家で家庭関係をあたたくするためのものを作りたい。

※ 英語はたくさんの言語の一つでしかない。→英語至上主義に反対

※ 各国語の発音CD(各国大使のお子さんなどに来てもらい、録音)

苦勞した点

日本文化をどう英語で伝えるか

例 漢字 海星(ヒトデ) = star fish 「人間であれば感じ方は同じなんだ」

英語ノートをどう使うか

ノリが悪ければ変えればよい(学習指導要領に合っていればよい)

この2年間でいろいろなシチュエーションを作ってあげることが大切

(相手を知る・自分を知る)

英語をツールとすると高学年の活動への抵抗感を低めることができる

(日本語で、~は好きですか、誕生日はいつですか、など言えないが、英語では言える)

日本の教育について

文科省職員フィンランドへ視察に行く者が多い

しかし、世界からも日本の教育についてたくさんの方が視察に来る

「あれだけ予算をかけずに世界最高水準の教育レベルを保てるのは世界の7不思議」
裏を返せば「教員の質の高さ」がある

小学校外国語活動

原点は「心を育てる」 楽しい(fun)より楽しい(interesting)

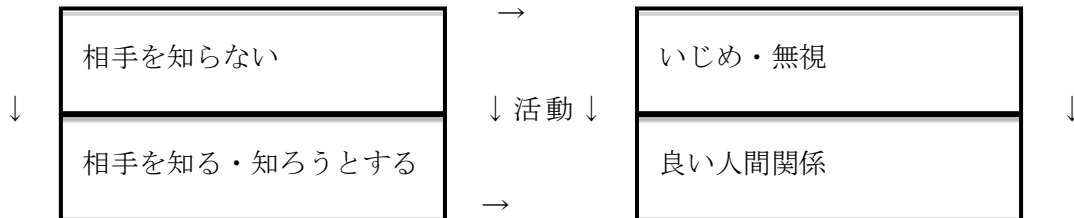
英語でいす取りの授業→楽しい→中身は？→忘れた！・・・では困る。

活動を通して～さんの好きな～がわかった。 など

英語＝ツール 国際理解＝コンテンツ

5, 6年の小学校外国語活動は、英語を通してどう国際理解の考えを育てるかが大切

* 4年以下でもそれ抜きで「しゃべる」はできるかもしれない。



評価

形成的評価 (やる気が起きる評価)

「～できる」という文言は使うな！ → 「～している」「～しようとする」など

観点 { 1, 言語や文化に対する体験的理解
2, 積極的なコミュニケーション
3, 外国語に慣れ親しむこと

5年：友だちとの関わりを中心に

6年： " + 国際理解に関する活動について

小中連携について

校区での連携を密にせよ

一番変わってほしいのは中学の先生

小学

小学校外国語活動 (年間35時間)

→スキルは週1回では身につかない

最低限の目標は、英語を嫌いにさせないこと

楽しい! の気持ちのまま中学へ渡す。

コミュニケーションするのが好きになる

↓

中学

英語 (1年：週4h 2年：週4h 3年：週4h)

→ (国語 数学より多い スキルが身につく)

中学の単語数	40年前	1300語	
	10年前	900語	
	移行後	1200語	(しかし新しいものは900~1000語)
			なぜなら285語の積み上げがあるから

小学	5年	135語	}
	6年	150語	

言葉の意味

英語を使ってどういうことができるのか
を伝えること

285語

この分は文字として知るのみで、意味は
わかっている

まとめ

小学校外国語活動：

国際理解の題材 (コンテンツ) を、英語を使っておこない、心を育てる